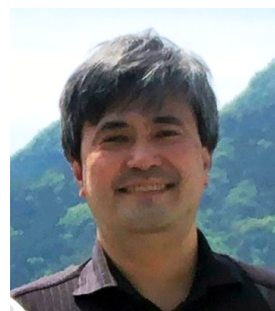


仲間と「化学」を楽しむ高校生の姿に心洗われ

筑波大学数理物質系化学域
教授 笹森 貴裕



2017年第14回、2018年第15回の高校化学グランドコンテストは、名古屋市立大学で開催されました。当時同大学に勤務していた私は実行委員会として運営に関わる機会を頂戴しました。開催前には、「高校生に化学の面白さをもっと知って欲しい」という強い思いから始まった高校化学グランドコンテストは、「化学の甲子園」とも呼ばれる全国的なイベントであり、第10回以降は台湾やシンガポールの高校生も発表する国際大会となったという、長い歴史と熱い思いを中沢浩先生から詳細に伺いました。その思いに共感すると同時に、主催者の一員としての重責を感じたことを覚えています。

開催運営側としては大変なことも多くありましたが、キラキラした目で自分達の研究を熱く語る高校生と出会うと、疲れなどふっとびました。口頭発表、ポスター発表とも、チーム一丸となって化学を語る姿に、感動を覚えました。高い研究レベルは勿論、自分達の研究を見て下さい、という積極的な発表姿勢が特に印象に残っています。誇りに満ちた目の輝きで周囲の人を呼び止め、慣れない口調ではありましたが、伝えたいという必死の思いをのせた言葉やジェスチャーは、その一つ一つが聞く人の心に届いたであろうと思います。ポスター発表後の懇親会では、食欲旺盛な高校生でも、食事よりも親睦を深めることに一生懸命で、化学が好きな生徒同士、教員や参加した大学生とも、非常に活発に会話を楽しむ姿が印象的で、日本各地、台湾、シンガポールの高校生の間には、化学を志す一体感が生まれていたように思います。我が国の研究力が落ち込んでいる、と嘆かれる声を聞く昨今ですが、いやいやどうして、こんなに熱い高校生のみなさんが化学を楽しんで研究しているんだ、という姿を見て、我が国の化学の未来は明るい実感することができました。この高校化学グランドコンテストは、何と云っても、高校生・教員を含む参加者のみなさんが、化学を楽しんで語れる仲間が国内外にこんなに沢山いるんだ、ということを実感できる素晴らしい機会ではないかと思えます。この出会いを大切に、みなさんとまた近い将来、研究者仲間として再び出会える日を楽しみにしております。

今回、高校化学グランドコンテストの新たな歴史の幕開けとして、芝浦工業大学のみなさまが主催してくださり、こうして所属が変わった私にも審査員として高校化学グランドコンテストに携われる機会を下さいましたことに、心より感謝いたします。

